
ボックス・レスピレーター

ノラポン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ボックス・レスプレーター

【Nコード】

N5989M

【作者名】

ノラポン

【あらすじ】

本日の汚染レベルはCプラス。

各自ガスマスクを持参してください。いいですね。

キャニスターはしっかり掃除してくることに。怠ると死にますよ？

B マイナス

学校に着いたのはいいが、空気汚染が酷い今日は一日、ガスマスクを外すわけにはいかない。

見渡す限りの人が、マスクを装着している。なんて異様な光景だろうか。

「おはよう小唄ちゃん。三か月ぶりだよ、汚染レベルがBまで上がったのは。」

教室に入り、早速クラスメイトに話しかけられたわけだが、ガスマスクを装着している顔の判別は不可能に近い。首から下げている名札に注目してやると、そこには親友である美由紀の名前が記されていた。

「おはよう、美由紀。よく私がわかったわね。まだ名札を付けていないというのに・・・。」

「だってそんな旧式のガスマスク付けてるの、小唄ちゃんだけだもん。今の流行りはほら、こんな風に吸収缶が斜めについてるんだよ。可愛いでしょ？」

「私だって、好きで旧式のM40をつけているわけじゃないのよ。こいつを愛用してるのにはわけがあって・・・。って、美由紀だって知ってるくせに。」

「ごめんごめん。わかってるわよ。あの時の、あの事件の、あの能力が宿ったマスクだもんね。あ、予鈴が鳴ったよ、小唄ちゃん。」

席に着き、ふと窓の外を眺めると、今日も一面が灰色の空。

一昔前までは青空が広がっていたなんて、いったい誰が信じるだろうか。

この、禍々しいマスクを外せる日は、来るのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5989m/>

ボックス・レスプレーター

2010年10月10日21時32分発行